



令和元年12月6日発行 中等新報第35号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

校内研究授業② ～ 読解力・表現力の伸長が鍵 ～

中等新報第15号（7.25発行）に引き続き、今回は後期における研究授業から以下の3授業を紹介します。

6年2組「古典B」（10月10日実施）

教材は、「蜻蛉日記」。平安時代の結婚制度を踏まえ、本文中の和歌に込められた作者の心情を読み取りました。グループで、和歌の解釈を現代の日常語に置き換える作業を行い、互いの読解を確認し合いました。



バレーボールのミニゲームをとおして、自分たちのチームの課題やフォーメーションなどについて話し合いを行いました。チームの動きをより良くするための工夫を「チームカード」にまとめ、次のミニゲームで実践しました。

1年男子「体育」（10月25日実施）



5年2組「コミ英II」（11月6日実施）

「Minority languages should be protected」（少数言語は保護されるべきだ）というテーマでディベートを行いました。8人で1グループを構成し、賛成派、反対派、司会・審判に分かれ、2ラウンドのディベートを経験しました。



12月3日に公表されたOECDの学習到達度調査（PISA 2018）の結果が最近ニュースで取り沙汰されています。「読解力」が注目を集めています。この力の育成は当校の課題でもあります。テキストから必要な情報を探り出し、問いに応じて適切な形に改める。このような演習の機会を増やしていく必要を感じているところです。